

積雪・寒冷地域に おける暮らしの これまでとこれから

—— 持続可能な発展のための冰雪圏からの視座 ——

わが国は、夏季は温暖であるが、冬季は積雪や凍結に見舞われる地域が多く、人々は工夫を凝らしながら暮らしてきた。また、近代化に伴い、寒冷地ではない都市部でも少量の積雪や凍結が経済活動に混乱を来すようになっている。

本講演会では、日本のみならず世界にも目を向け、寒冷な地域での人々の暮らしについて、歴史学、社会人類学、農学、雪氷学、環境学の専門家からお話を伺い、今後、私たちの生活様式の変化や気候変動が寒冷地域にもたらす新たな課題と、その課題にどのように向き合っていく必要があるかを参加者とともに考えたい。

〈 日 時 〉

令和4年 **11月5日** 土
13:30～16:55

〈 開催形式 〉

オンライン開催
(ZOOMウェビナー)
※事前登録制(先着500名)

参加申込方法

参加を希望される方は**10/30(日)**までに下記URLまたは右のQRコードより事前申込をお願いします。定員になり次第、事前申込の受付は終了します。



URL

<https://forms.gle/dPQkDNYKt1rPp94F9>

〈 現地会場 〉

東北大学片平キャンパス内
※事前案内済の関係者のみ現地参加可

〈 次 第 〉

司会進行：武藤 由子 (日本学術会議連携会員、岩手大学農学部 准教授)

1 開会挨拶 13:30～13:40
日本学術会議会長 梶田 隆章
東北大学総長 大野 英男 (日本学術会議連携会員)

2 講 演 13:40～16:25
① 昭和初期の雪害運動について
伊藤 大介 (東北学院大学教養教育センター 助教)
② 北国の農業を支える寒さ、涼しさ、雪の恩恵
下野 裕之 (日本学術会議連携会員、岩手大学農学部 教授、
岩手大学次世代アグリイノベーション研究センター センター長)

休 憩

③ 雪氷災害と雪氷環境およびその変化について
根本 征樹 (防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 雪氷環境実験室 室長)
④ 大気中の微粒子とその気候影響 — 積雪・寒冷地域での大気観測例を交えて
岩本 洋子 (広島大学大学院統合生命科学研究所 准教授)
⑤ 氷の文化誌—永久凍土の恵みと災い
高倉 浩樹 (日本学術会議東北地区会議会員、東北大学東北アジア研究センター 教授)

3 質疑応答 16:25～16:50

4 閉会挨拶 16:50～16:55
佐藤 嘉倫 (日本学術会議東北地区会議代表幹事、
京都先端科学大学人文学部学部長・教授、東北大学大学院文学研究科 教授)

〈 お問合せ先 〉 東北大学研究推進課 TEL: 022-217-4840 E-mail: kenkyo@grp.tohoku.ac.jp